発行所　入善町中央公民館
編集発行　責任者　船平源蔵
印刷所　池原印刷所

公民館の使命と館報の發刊

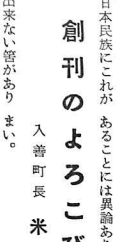
入善町中央公民館長　船平源蔵

これからの日本に最も大事なことは、すべての国民が豊かな文化と向上發展を身につけて、自分で又は自分等で自主的に物を考える習慣を作り、平和的に協力的に行動する習性をやしなうことである。そして之を基として文化教養機関である。それは又青年団、婦人会、体育団体、音楽クラブ等の各種団体、文化団体の本部ともなり、各団体が手をつないで町村振興の底力を生み出す場所でもある。

わが国の教育は、学校教育を通じて一応どんな片田舎にも普及した形ではあるのだが、真に町村民おのおの互の自主的な要請と協力とによって設置せられ、又を女も、産業人も教育者もみんなが読み合い導き合つて、お互の教養を高めて行くような方法が取られねばならない。

公民館は全国の各町村や部落に設けられ、そこへ何時でも自由にその町村民が打ち集つて談論したり、読書したり、生活上産業上の指導を受けたりしてお互の交友を深める場所なのである。云い変えて見れば郷土の民主的な社会教育機関であるから町村民が進んで教えを受け、楽しんで之を利用する事が出来るように、此所には図書や幻灯機や映写機や、その他の機械類（青島の町村や部落自身の創意と工夫と財力とによつて維持せられて行くことが理想なのである。

以上述べたように、公民館は町村民が相集つて教え合い、導き合いしてお互の教養や文化を高めるための民主的な社会教育機関であるから、町村民の教養文化を基礎として郷土の産業活動を振い興す原動力となる機関であるから、町村内に於ける政治や教育や産業機関の諸機関が一致してその運営に参加するならば、教化活動と産業指導の活動が綜合的に推進される場所になるのである。



創刊のよろこび

入善町長　米沢元健

出来ない筈がありましょうか。

はたせるかな、公民館運動が全国一斉に渾彫として興り、僅か数年にして今日下苦心も、耕す苦労も、種を一切せずに、成木をそのまま、しかも人様の手で日本新日本のかかげる崇高にして遠大なる理想であります。

恰も、育て上げて、文化の香り高い理想郷を創り終せる、これこそのであります。

求めずして与えられた民主主義、血を流さずして出来上つた民主憲法！　幾百年もの永い人類の血醒い闘争の歴史を経ずして得た天与の至宝―敗戦の代償―を、真に之を生かし、育て上げて、文化の香り高い理想郷を創り終せる、これこそ新日本のかかげる崇高にして遠大なる理想であります。

恰も、耕す苦労も、種を下苦心も、育苗の世話も一切せずに、成木をそのまま、しかも人様の手で日本の土地に移し植えてもらつたあと見事な花を咲かせますが、その目的達成の近道は、何といつても館報の発刊であり、館報の利用であることには異論ありますように、村造り町造りも決して人の手に活のすがたそのものの記録のみ委ねていてはならないであり、尊い歴史であることはゆるされません。

忙であろうとも、そのすべてを、住民すべての協力と愛情を欠いては、到底本来の使命を達成することが出来ないのであります。

この館報は、町民皆様の祝意を表しますと共に、館報の見事な成長を祈念致します。

創刊に際して

入善町教育委員長　米沢甚吾

公民館の使命は今さら喋るまでもないことであります。

公民館の使命は今さら喋刊号の発行されたことを心から喜んで居る次第であります。

主権在民の今日、政治は人にしてもらうのでは無い。館報は決して一片の紙きれでは無く、入善町民の生活の記録であり、尊い歴史であると考えます。私は、如何に多いなる抱負をいだきつゝ創刊号を要しないところであります。

館報の育成もこれと同じで、住民すべての協力と愛情を欠いては、到底本来の使命を達成することが出来ないのであります。

この館報は、町民皆様の祝意を表しますと共に、館報の見事な成長を祈念致します。

政府の方針に応え、地元民の熱烈なる要望により昨年十一月一日を期して、元の入善区域一町七ケ村が大同団結し、こゝに大入善町の発足を見るに至つた事は、各位と共に御同慶に堪えません。

これと同時に入善町教育委員会が設置せられ、学校教育並に社会教育の一般を司ることになりました。

学校教育に於ては各々学校長の自主性と委員会の助言により、その全きを期しつゝあります。特に本年は地元民の要望により既設校舎についての検討を加え、管内小学校五校の増改築を実施する事となりました。

町民各位の理解ある御協力をお願いします。そしてよく読み、よく意見を吐き出しあい、紙面を通して全町民が提携なされ、住み良い郷土を造るよう期待して止みません。

館報は決して一片の紙きれでは無く、入善町民の生活の記録であり、尊い歴史であると考えます。

久しく待望の公民館報の発刊については人員の都合を切望して止みません。

社会教育に於ては社会教育委員並に公民館審議委員各位の協議をもとにして、誠に充実した町村民の民主的な公民館活動の運営に努力をつゞけております。

公民館は中央公民館の外に七つの地区公民館を有し更に五十七館の分館を設立し各々その館の特徴を生かし自発的な活動に期待し、委員会は側面より協力助言をなしつゝあります。

四月一日に入善町立入善図書館を設立し蔵書五千冊、専任の書記を置き連日開館致しております。

特に巡回文庫に主力を注ぎ既に各地区公民館に巡廻し各位の購読を願つております。尚本館には閲覧室を設け、各位の御来館を歓迎しております。既に毎日三十名前後の閲覧者を数えております。尚今後予算の許す限り新刊図書を購入し各位の読書に満足を与えたいと念願致しております。

久しく待望の公民館報の発刊については人員の都合により、一日を以て「月報入善」創刊号を発刊するに至りました事はよろこびに堪えません。

今後は毎月一回発行し各位の御意見並に御希望と、更に当局の報道機関として完全なる使命を果したいものと思っております。

公民館報はあくまでも町民各位のもの、として愈々明るい入善町発展のための原動力と致したいものです。理想を追求し現実の一歩でも前進させるためには、現実の社会を直視すると共にそれに伴った批判がなされなければなりません。

町民各位は町民として良識に基ずいた卒直な御意見御主張を期待してやみません「総ての組織も運営もそれ一丁に掛る人々の熱と努力の如何による」

この精神が公民館を中心とした社会教育活動に大きく現われ、全町の教育施策として強く打ち出されることと念願して御挨拶と致します。

公民館報の門出を祝して

入善町議会議長　岩田磯吉

社会教育の進展に伴い、公民館活動の一環として、今般公民館報の創刊発行の運びに至りました事は、衷心より御喜び申上げます。

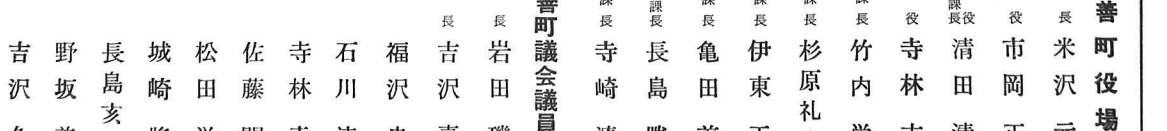
公民館の設置が全国に勧奨された昭和二十一年七月から今日に至る迄の間に於て、其の設置状況は、全国的から致しましても、飛躍的発展を遂げ、我入善町に於きましても県下に誇る発展振りを示し、本館分館合せて六十有余館の設置を見、日夜その機能を発揮し、新生入善町の政治・経済・教育・産業・文化・衛生等、各分野に亘る実際の情況に寄与されて居る事は、町発展の為め、誠に慶賀の至りに存ずる次第であります。

公民館報に就きましては、元入善郡区域各町村、各々発刊致して居られた事は、今更申し上げる迄も有りませんが、時勢は、町村合併を要求し、其の要請に応えて、昨年十月一日新生入善町の発足致しました事、事務の整理調整等の事情等により、今日迄各館共館報の発刊が心ならずも中止の事態に置かれて居た事は、御承知の通りでありまして、今回の発刊こそ三万町民挙げて喜ぶべき壮挙と言わなくてはなりません。

申し上げる迄もなく、大入善町が誕生致しましてより満一才にも満たない幼女児でありながら、全国的に押し寄せて来るデフレの波を乗りきらなければならない運命に遭遇し、尚合併は打つて一丸とは申しながらも旧町村に於て、おのづから地理的にも、生活環境に於ても多少なり異異た点も全々ないとは申されないのではなかろうかとも考えられ、こうした面を考えます時、本当に明るい平和な郷土建設には、公民館活動こそその機運や体制を基礎づける一大原動力であり、これを推進する唯一の道は館報の発刊であると信じます。

この公民館報に依つて、町の実態、町政の在り方を認識理解して頂き、各種団体の連絡強調等社会教育の育成強化、亦一面三万町民の偽らざる真実の声を聞き、かくして充実した内容に配意し、秘密なき明朗な町政の推進母体の機関紙として、将来を期待致す次第であります。希くはこれを契機とし、二万千有余の皆様之こそ打つて一丸となり、明るく卒和な象かな文化の香り高き理想の入善町建設の為め、御理解ある御協力を密せられ、之が育成強化を望んで止みません。茲に意表深い創刊号の門出に際し、心から本紙の前途の御多幸を祈念致します。

（写真は入善町中央公民館）



入善町役場

町長　米沢元健
助役　市岡正義
収入役　寺林吉平
商工水産課長　清田清一
助役
総務課長　竹内栄治
財務課長　杉原礼次郎
建設課長　伊東正二
厚生課長　亀田善吉
保健衛生課長　長島勝正
農務課長　寺崎清作

入善町議会議員

議長　岩田磯吉
副議長　吉沢壽彦
福沢忠命
石川清作
寺林幸作
佐藤関一
松田栄松
城崎將雄
長島亥一郎
野坂義昌
吉沢久雄

創刊を祝う

富山県議会議員　富山県教育委員　柚木栄吉

昨年区域八ヶ町村が大同合併致しまして、新しく入善町の誕生を見まして以来、町教育委員会におかれては、旧来の公民館活動の再編成に御努力致され、新しく大入善町の育成構想に基づき、着々その成果を揚げられつつある事に対し、常に感謝致して居る次第であります。

公民館活動が、我々町民の実生活に直結され、いつも平行線の歩みを続けていなければならないことは申し上げる迄もないことですが、その実践機関の一つとして新町発足以来計画念願されていました公民館報が、いよ〳〵発刊されましたことは、皆様と共に喜びに堪えないところであります。

永らく「依らしむべし、知らしむべからず。」で、上意下達の政治に圧迫され、目をおうわれて来た我々が、戦後人民による人民の国を造る民主主義政治を獲得致しました訳であります。

一般大衆にはそれを受け入れる準備が欠けておりました。たして、社会は混とんと致しました。この弊害と矛盾を一日も早く打破致しまして、真の民主々義に徹したいと誰もが念願致しているのであります。

この念願を果してくれるものは即ち公民館活動であり、それをリードする機関である館報のもつ責務は重大なものがあるものと存じます。館報を通じて町の動きを知り、文化人としての教養と、豊かな情操を身につけ、生活の合理化と向上を計ったならば、殺ばつな現代の世相も改まり平和そのものの町が出来、国が生れる事でしょう。当事者の方々には、発刊を見るまで大変御苦労なことだったと存じます。今後その苦労が倍加されると存じますが、途中で坐折することなく、町民の機運をよりよくして下さるよう切に御願いして致しまして発刊の祝辞と致します。

公民館報の発刊を祝して

入善高等学校長　松島弘作

公民館活動について、公民館活動の重要性については既に県下に定評のある当入善町が、更にその活動を一段と前進させる意図のもとに、今回公民館報を発刊されることになったことは誠に喜ばしいことであります。

公民館の仕事は極めて広範にわたるものと考えられますが、総じてそれは一般社会教育という大きなねらいにつながるものと信じます。その意味に於て我々学校教育に携わるものは、公民館活動に大きな期待をかけると共に、相互の積極的な協力が一層必要であることを痛感するものであります。児童生徒の教育の場は直接には学校であることは疑いありませんが、家庭社会も亦児童生徒の教育の成否を左右する大きな因子である事は否定できません。

こゝに、公民館活動の真の一分野を認めるのであります。良い政治は良い教育によつて育てられると共に、良い教育は良い政治から生れることも真理であります。

そして良い政治は町民全体が常に町政に深い関心をもつことから醸成されるものと信じます。このことに関して公民館報は町当局と町民の間の意志の疎通に大いに役立つ筈であります。

又既に述べましたように児童生徒の教育は学校だけでは到底背負い切れないのであります。家庭や一般社会の理解と協力がなければなりません。それには学校の教育計画の広報と、父兄その他一般各位の建設的な声の傳達が何より緊要と思われます。

発刊によせて

入善町飯野公民館長　米島一信

大入善町発足以来満一町歩年を迎えんとしております。館報は合併前では上原、飯野、小摺戸、新屋、鬥山、横山の各館で発刊していたが、これを機会に統一して中央公民館より「月報入善」を発刊されますことは誠にまことに有意義なことゝ存じます。

公民館が我が国に設けられるようになりてから、既に八ケ年も経過し今では入善町としその数に於て分館を合せて六十五館に及んでおります。飯野地区公民館も昭和二十四年に設置し事務所は支所に、実際活動の大部分は公民館及び学校の利用で館長及び職員は全部支所職員の兼務であります。

公民館運営審議委員の活躍と共に各種団体との連絡を強化し、文化向上地区民福祉増進に努力して、その成果をおさめつゝあります。

本年度始めに各種団体綜合の事業計画案を立て、公民館運営審議委員に諮り、公民館行事一覧表を作成し、実施を円滑にすると同時にその利用度を拡大せしめております。

これ等の事柄を広く町民に知らしめるには公民館報こそ最も有効に利用されることゝ信じます。

このときにあたつて本町における今日までの活動概要を記した公民館報を発刊されますことは喜びに堪えぬことであります。

今後公民館活動の推進に一層の寄与をなし下さるよう祈念してやまぬものがあります。

賀入善町公民館報之創刊

黒東詩吟会長　範士六段　上野豊次郎

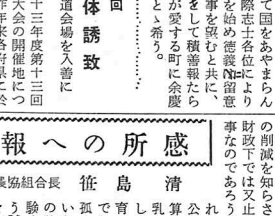
一郷文友盡雄才
吾復晩年附驥来
岳雪養心入善報
海籌練膽公民寮
草創事業同仁力
持久方針挙世財
此日須期紀念事

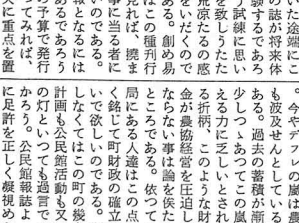
全地区五十七分館

町教委視察激勵

教育委員会及び中央公民館に於て六月二十八日、七月六日、七月十七日の三回にわたり、全地区の分館を視察（訪問）し分館長外幹部と会談し、その運営状況施設等を見せてもらつた為、全地区分館視察した為、一応全地区の分館の実態を把握する事が出来、将来の指導方針を確立するのに役立つ事は申す迄もない。

全分館を見て施設面ではある程度のひらきがある。しかし部落民の分館に対する認識は一般に高いように見受けられ、その経営に当つては民衆に親しませるようあかるい美しい何枚かの絵を掲げるとか、生活設計の模型等があるとか、色々苦心が払われています。





上　田中分館に於る懇談会
下　本年五月落成した下飯野分館

その他公民館報の受持つべき仕事は数多いことゝ思いますが、この種刊行物はやゝもすると徒らに屑籠の厄介になるばかりで、一向にかえりみられない場合が多いのであります。従つて内容は余り欲張らないで何より町民全体によつて心から愛読されるような工夫が望ましいと思います。こゝに新しい生れんとする公民館報に大きな期待を寄せると共にその成長を心から祈つて、発刊を祝う次第であります。

視察と同時に全地区分館の全景、あるいは会談状況を撮影した。

中央公民館ではこの撮影したのを幻灯にして、公民館の姿を見てうれしく思つた。

スライドにして、全地区分館で披露する事にしています。

「雄大なる詩をものせんと欲する者はその生活を雄大なる詩たらしむべし。」（ミルトン）

「人の値は其の道徳上の価値によつて定まる。」（ラボック）

歴史を作るものは人間である。人間を作るものは教育である。教育とは歴史を作る力をつけることにほかならない。（長田新）

中国の堯・舜・禹・湯・文・武・周公・漢高祖・光武・唐太宗の治世と宗代の王安石の新法（特に青苗法）詩人蘇しよくの詩案、司馬光相業等を省み感無量である。

司馬光は晁無咎に「自分はこれといつて何一つすぐれていることとてないが、ただ平生為した事でまだ一度も人に向つて話されないような後めたいことはない。」と語つた。又門人劉安世に唯一言で一生涯を通じて行つてもよいことは「誠」であり、誠に入る道は「うそ」を言わぬことから入るのだ。」といつた。

民主主義以来ヵカ天下が横行しても斥けられず、一国の宰相が法を無視して流言ひ語などの言を弄し、恬として恥じず某国人をして日本人は十二才なりと云わしめ、弥亡国に迫し、才子才におぼれて国をあやまらんとす。此際志士各位により第一輩発を始め徳義の留意せられん事を望むと共に、月刊入善をして積善報たらしめ、我が愛する町に余慶あらんことゝ希う。

第十三回　國体誘致

柔道会場を入善に

昭和三十三年度第十三回国民体育大会の開催地については、昨年来各府県に於て猛烈な誘致運動が展開されて来たのであるが、今のところ富山県の運動が効を奏して、開催に明るい見透しがついた。

その主会場は富山市であるが、柔道、相撲などは希望によつて県下に分散する事になつたので、柔道会場は是非入善町にと、とり誘致に意気込み、その準備として、北海道苫小牧柔道会場を視察の為、竹内慎一郎氏が出張し、貴重な資料を得てこの程帰来した。

小學校舎増改築

よい子たちの風や雪にひや〳〵するなやみ解消

これ以上耐え難いと云うぎり〳〵まで御審公した入善小学校舎などの増改築案が、去る八月六日の町会で全会一致で通過した。

町財政の涸渇とデフレとで、校下父兄の切なる願いも或は日の目も見ずに葬られるのではないかとゆうりよされていたのであるが、当初予算に於て、国庫補助二千万円、町債二千万円を見込み、計四千万円の増改築費が計上されていたので地元では、この際特に地元住民の節約によつて積み立てられた農協預金などごつそり引出して一時立替えをすると云う約束のもとに強力に運動が進められ、結局その熱意が買われて、実現の運びとなつたものである。

尚、増改築案並びに請負落札高及び請負者は次の通りである。

小学校名	建坪	請負高	請負者
入善町校	461	15,350,000	組
飯野校	247	7,448,000	組
小摺戸校	120	3,075,000	組
新屋校	22	950,000	組
横山校	13	337,900	広川建設
計	864	27,160,900	

公民館活動の推進を図るべく条令その他諸規程など制定されたのは、過日の事であつた。まことに結構な体制が出来上りそうであつた。

期して俟つべきものを感じていた矢先に公民館予算の削減を知らされたデフレ財政下では又止むを得ない事なのであるが、創刊されるこの中央公民館報も予算とやらの哺乳の削減で乳果して健かに育つてゆくのであろうかと貧出している額は近郷に類例のない巨額のようである。今やデフレの嵐は農村にも波及せんとしているのである。過去の蓄積が漸次減少しつゝあつてこの嵐に耐える力に乏しいとされている折柄、このような財政資金が農協経営を圧迫してはならない事は論を俟たないところである。依つてその局にある人達はこの点に深いで欲しいのである。斯くしなくてはこの町の綾多の計画も公民館活動も又風前の灯といつても過言ではなかろう。公民館報誌よ「常に足許を正して凝視めながら」進展あらん事を深く念願して その将来に栄光あらん事を祈ります。

が望ましい。そして今一つの願は安じて発行出来得るように財政の裏付付けが確約があつて欲しいのである。即ち財政の確立のためである。町民が等しく何時も願いつゝ続けていることは少くとも当初予算の完全実施である。内に実施されることであり、画餅に終らない予算という願いこそ只に館報誌のみではなかろう。

この町の構成は農民が大部分を以て形成されているのであるが、農林予算も相当のようである。そして農業協同組合が財政資金として

館報への所感

飯野農協組合長　笹島清

祝創刊

井田義作
本田仙良
新田義政
元田茂平
大田元長
古谷學
松田喜代士
長谷川一郎
米沢政虎
廣川周作
永原數之
杉原文次郎
金沢太一
杉田作右ェ門
米田仙次郎
船平松久
舟川竹次郎
岩場清十郎
高田榮松

入善町教育委員会委員
委員長　米沢甚吾
鬼原信義

結婚改善をはばむもの

八幡　柏原盛作

「結婚は人生の出発点なり」尤もな言葉である。結婚式となると、お金持でも貧しい者でも一生に一度の事だからと思う気持から、つい大げさになってしまう。結婚する当人同志にとってみれば、金をかければ理をしても、母親は意わず、かえって質素な中に真心のこもった方が嬉しく感じる。たくさんのんだくれが酒飲むのを目あてに夜を明かし、くれん／＼とつて帰って行く様子を見ると、神聖な結婚も全くこれが人生の出発点かとため息が出る。私達のような一介のサラリーマンが、わずかの金もさっぱりとした結婚式の費用にと貯金し、予裕があれば合理的な生活の費用にと考える夢はいざとなると無残にもこわされてしまう。

世の人は今も結婚改善を叫んでいるが、どれほど改善されたであろう。

言葉や理ってくりの、心の中が解っていないのだ。

又、母親がしみ／＼とこう言った「母親としてみれば一生に一度だから華やかにしてやりたい。然しお金がないので借金してでもよいから娘のしあわせの為にたくさんの物を入様以上にやるつもりです」と。

娘を嫁がす母親にとってみれば、皆我が子を盛大に して嫁がせてやりたいと願うなろうと。たとえ後の自分達がどう……。

嫁を迎える側にとってみれば、息子の一生に一度の事だから借金までして盛大にやろうとする。

「一生に一度」その事で結婚式後の長い希望ある夫婦生活が借金苦に家中悩まされる実例は数限りなく。

それこそ「結婚は人生の墓場なり」だ。

結婚式を華かにすると言うことは、その事ばかりが原因しているとは思わないが、道具が少ないと嫁さんが上げてもらいたいものだ。

炬達のやぐら、ほうき、たらい、ちりとり、バケツ夫の寝具、寝巻、はては高ごぜんに御はしまで揃える、貰ったところでどうにもならない。大きな長持ちのような置く處に困るものまで揃っている。

幸福になるどころかめんどうで持って返ってくれといったい。

私たち結婚適齢期に近づいた青年の考えや、声を聞いて貰いたい。世の人はかけ声ばかりかけづに結婚する者同志の結得のゆく、無理のない希望をもてるような式を作ってくれてもよいと思う。

早くこの封建的な行事を婦人会と青年団と協力して作っていこう。これが私の小さな願いであり大きな望みである。

黒部大橋

橋脚の一つが完成

流れない橋の夢が愈々実現

去る二月十四日に起工式を挙げた黒部大橋の工事は、請負者本間組の手によって進められていたが西詰の橋脚だけが、昨年の暮から新大橋の位置は、桜井橋より三五〇米ばかり上流に架けられるのである。

設計の大要は、全長六〇四米、有効幅員七・五米（現在の橋の約二倍近）鉄筋コンクリート造りの曲弦ワーレン鋼鈑橋（黒部の鉄橋の様な吊橋が九箇）これに要する資材は十トン貨車でセメント約三三〇車、鋼材が二二〇車の勘定となる。この総経費は、橋の西詰から三日市の町までの取付道路二五〇〇米分もふくめて五億八百五十万円である。本年から五ケ年計画だから昭和三十三年度に完成するわけである。

国道八号線の改修は現在のところ宮崎西岸から泊病院前を通り、小川東詰まで進んでおり、入善町地域だけ残されているので、黒部大橋の完成と同時に真すぐな広々とした新国道を作り、幸い八月四日、小沢建設大臣が当地方視察にこられた節、鍛治代議士、下新川郡町村会事務局長等が出迎えの上詳細に陳情したところ、大臣に於ては地元の要請を熱心に聴取し、盡力することを約した。

今後もこの問題については油断なく当局に陳情を続ければならないが、何としても地元民の熱意と協力とが目的達成の只一つの道であろう。

乳幼児表彰

―つよい子に育てよう―

去る四月二十一日、富山県乳幼児健康検診予選会に合わせて、椚山地区の乳幼児健康診断を実施した結果にもとずいて、今般入善町より、優良乳幼児として左記の表彰があった。

乳幼児氏名　保護者名

長田博和　信一
池原　正　常治
坂東京子　高雄
前田　孝　米松
大田博久　長次郎
青木幸美　幸松

世相をながめて

細田清之助

新聞をひろげて先ず見出しを求めてザァーッと見渡す。大活字で悲劇事実や凄惨な記事が眼に入る。よい気持ちがしない。またかと戦慄する程のこれ等の出来事は、そも／＼何處にその原因が存するのであろう。政治面では吉田暴言問題、これに伴う波紋記事、又経済面のデフレの影響による各方面の実相を報じている など、今后の進展ぶりが注目されよう。

こんな陰うつな空気の中から、私の心を清浄にし緊張させてくれるものは、運動界における野球、相撲、陸上競技、水泳競技等の記事とその写真である。不愉快な記事に心が曇つても、スポーツ精神の尊さとでも云うか、一挙に晴天白日のごとく爽快さを覚え心が勇む。毎日繰せられている修養記事見るのである。即ち老人組に向って、壮年者に対し、婦人や男女青年に対して！と云った風に、各階各層に向つてお互に反省、猛省すべき事のあることを痛感する。以下具体的に考述して見たい。

これ久うする幾多の事例を一、真心と真心の交流が薄いのではないか。

吾々は何時なにをなすにも、如何なる職にたずさわっても、最も大切な事は真心であると信じている。而して人は誰しも真実の心は自分の体の奥に蔵しているに違いないが、一般に就職の道も拓け、物資も豊富になるし、食糧事情も円滑に運転している為めであろう。慶すべき傾向である。然しも一歩進んで、この世相を歩いを進めてこの世相をながめて見ると、"こんな事でどうして祖国再建の実を挙げ得るだろうか"と慨嘆する者が多くなる。

一旦他人に向った時、社会に対した時に、真実の有り方が全部を提供しないで、幾分の割引（真心の出し惜しみ）をする所に不祥事発生の根元があるように思われる。相手を疑う心、かけ引算段が強く現われて、相反撥する醜合どころか、相反撥する常の醜さを仕出来すのが常である。何分の飾りは礼儀上必要かも知れぬが、有りのまゝを、信ずるまゝの姿で両者相接することが理、美しい麗わしいことがなかろう。近頃、"ガラス張りの政治"という言葉をきく。ガラスは硝子を張るから汚れたり曇つたりするので、一層のこと、ムキ出しの方が明朗的のではないか。（次号に続く）

人工呼吸の指導

水上安全法救助員

曳田利光氏の活躍

広びろとした海や清い流れの川で、大自然の恵を浴びながら水泳する楽しさは、故を起さないようにして、みんなで楽しく水に親しむことのできるようにしたい。

そのためには水泳の練習が必要である事は勿論ですが、その外に一歩進んで、私たちは溺れないための水泳上の注意や、溺者の救助の方法、そして更に溺者の応急處置についても学ばねばなりません。

前号では希望により夫々の分館へ、分館へ、

想像するだけでも気持のよいものです。だが水泳すら楽しさの裏に、数多い水の犠牲者の数は毎年約一万五千人、しかもその多くは前途ある青少年であると聞かされたなら、必ずみゝは驚くことでしよう。私たちはこの水による犠牲者を一人でも多く救い、また、事故の起きない様に、

日本赤十字社水上安全法救助員を派遣して水上安全法の普及宣傳を行い、殊に溺者の早期発見と人工呼吸法を実地指導を行った。実地日程は次のとおり。

八月二日　五十里分館
八月三日　若栗新分館
八月六日　下上野分館
八月十四日　横山青年学級

婦人學級の活發化

上原婦人会（会長＝奥田あや氏）ではかねて計画中の婦人学級を、母親クラブ活動を含めたものとして、講師（敬称略イロハ順）市岡正義　岩場大吉　西山卓恵　若狭親吉　金田武一　吉田　耕　玉地流権　中野康治　大島幸治　奥田新作

講師は次の通り。

入善町政について　岩場大吉
児童の育成と家庭教育　市岡正義
宗教教育　若狭親吉
生徒指導と家庭教育　西山卓恵
農業技術指導　金田武一
保健衛生について　吉田　耕
宗教々育　玉地流権
婦人活動の有り方／レクリエーション指導　中野康治
青少年問題と防犯　大島幸治
世界の動きについて　奥田新作

船平源蔵
生活合理化と教育について　大倉久光
その他に　松島弘作
大井撃郎　松沢吉郎
山口良三

校庭で八校下田三百名出場、午前十時大会長扇谷田長の挨拶来賓祝辞があり、男子八〇米予選の号砲と共に熱戦の火蓋が切られた。競技トピックスは、男子バン喰い競争で懸命力走の選手がバンを完全に口中より無くしてゴールインするのにバンの早喰いと心臓の動きで目を白黒にする一幕もあれば、ラムネ競争ではシャツを真赤に臨時染物屋を開業する者あり、網引では敗戦チームが網を放した余勢で勝利チーム全員が白花となる。白百合とも云うべき妙令の女子団員がボッカリとグランドに正月なら凧揚がる高の感激の場面としては男子五千米決勝で、炎天下の力走に雄図むなしく散った崎君が力走に力走第一位を占めたが一方観衆から見れば疲労で歩いて居る様に二周も遅れながらゴールイン した時は万雷の拍手と喜援が送られ、此の敢斗精神こそ青年の意気を発揮した最大のものであった。斯くして競技は全団員和気藹々の裡に進められ、午后五時男子八百米リレーを結びに競技は終了、優勝杯授与全団員拍手の中に大会は迫る夕闇と共に静かに幕を降した。日頃勤労の余暇利用の機会の少い青年の集いとしては大成功であった。尚成績は次の通り。

男子優勝　次撃勝　新屋
〃　〃　〃　上原
〃　〃　〃　小摺戸
〃　〃　〃　横山

女子優勝　次撃勝　新屋
〃　〃　〃　小摺戸
〃　〃　〃　横山

祝創刊

入善町教育委員会事務局

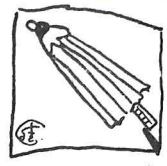
公教育館長　船平源蔵
図書館長　広野清秀
〃　〃　長島亘一郎
〃　〃　西村敬周
〃　〃　細田清之助

支所長、公民館長

上原支所長兼上原公民館長　金沢兼松
〃　〃　青木支所長兼館長　山崎芳雄
〃　〃　飯野支所長兼館長　米島一信
〃　〃　小摺戸支所長兼館長　若島助右ェ門
〃　〃　新屋支所長兼館長　藤田菊造
〃　〃　椚山支所長兼館長　長島啓太郎
〃　〃　横山支所長兼館長　濱瀬又郎

中央公民館運營審議委員

次撃勝　岩田磯吉
〃　〃　永井吉三郎
〃　〃　佐田ゆき
〃　〃　松島弘作
〃　〃　岡本義男
〃　〃　扇谷省



〝隠し筆〟

菊

長島勝正

九月九日は重陽の節句である。勿論旧暦の勘定だから大分遅れる、丁度明治の天長節の頃十一月上旬が一番菊の花の盛りであろう。

昔し国華という口附煙草があった、三十年も以前に三十銭だったと記憶しているから到底われ〳〵学生の分際では喫えない高級品だが、週二回朝倉文夫教授が教室に出現すると、やおら文付のたもとからこの国華の封を切って、一ぷく吸つけて一同の面を見渡す段どりにきまっていた。そこでうまさが悪童の一人が先生の煙草は何んとか、持ちかけると「そんなら吸って見給え」と別の未封切を一箱袂から出して呉れたものである。

国華の意匠は黒色地に華辨の白菊黄紫の絵がかいてあって、おかげでかゝる高級煙草の味を覚えただけでなくわが国の国花が菊である事を確認した次第である。

専売品の国華の意匠が菊であり、皇室の御紋章が十六辨の菊花であれば、菊がわが国を代表する花とするならば「万葉集」あたりに盛んに詠まれていさそうなはづだが、一首も見つからない。少し降つて平安の地に都が遷つてから薬草として珍重されるようになり、長生きしたいのは人情の常であり、まして国民の象徴の天皇無窮を願うことから舶来の菊が国華にのし上ったのだろう。

菊は一般に「きく」とよんでいる。支那よみそのまゝであるから、言葉の上からでも輸入品であることがわかるわけだが、西洋の方でも菊は日本の花と思いこんでいるらしい。ピエールロチ、が若い仏外交官として日本在任中の夢を描いたというマダム、クリサンテーム「お菊さん」は一人の日本女性の名でなく、すべての日本婦人の代表として強調されたのである。

菊は昔から秋菊の外に寒菊や夏菊など花の咲く季節がちがい、大、中、小菊に分類されて、大菊のうちでも、一文字、厚物、太管、細管に分れている。

菊つくりは一寸の虫にも五分の魂、一生懸命の菊つくりとなかゝ〳〵菊の栽培は面倒なものである。土の世話から始まる菊つくりで一番厄介なのが下葉の枯れ上るのを防ぐことであった。しかし「鵜飼菊」だけが例外で即ち春は花、夏は緑の葉、秋は黄色に変った葉、冬は葉の落ちた茎で、一株の菊を四季にかたどるのだから、なまけものの栽培にはもつて来いとというわけである。

例え夏菊、寒菊があつてももとは現代ほど年中菊は見られなかつた。花屋の店に菊の絶えないのは一寸した菊の特性を応用したので所謂「短日性」の植物だから、日の長い時日をさえぎれば秋さく菊でもどん〳〵早く咲くようになつたのだ。

本年度第二次自衛隊員募集

防衛庁では、自衛隊員の増員及び欠員補充のため左記の通り募集することになつたから、志願者は受付期間内に役場総務課へ届出下さい。

①受付期間　八月十六日より九月三十日まで

②応募資格年齢　昭和四年十二月二日生から昭和十三年十月一日生までの男子

③種類及び採用人員

陸上自衛官　二万名
海上自衛官　千六百名
航空自衛官　千五百名
新卒程度の常識名
④試験　給任六千円以上
⑤待遇　幹部へ進む道もある。

詳細は役場総務課にお問い合せ下さい。

古谷君國体で活躍

百米に二位で表彰台にのぼる

第九回国民体育大会は八月二十二日から二十六日まで北海道稚の都の札幌で開催されたが、本町からは県の選手として、長谷朋良君（教員男子二百米）古谷朋君（三十才未満百米）富谷稀一郎君（蹴球）の三君が晴れの出場をした。昨年の優勝者長谷君は脚の肉ばなれのため不調だったが、古谷君は堂々二位をかち得て栄ある表彰台に上つた。

柔道土用稽古

八月一日納大會

入善町柔道協会では、入善中央公民館道場に於て、加瀬五段青島四段上田三段の三氏を師範として、七月二十五日より九日間柔道土用稽古を行つた。

全協会の会員は一二七名最終日の八月二日には納大会を催したが、対抗試合の結果は次の通りである。

少年部

一等　泊俊
一、二等　野島功、三等　藤井孝行

青年部

一等　村田時明　二等　林富雄、三等　長能明雄

試合が終つて納会式を行ない、会長清田清一氏よりラヶ授賞の上、一場の告辞や、来賓の祝辞があつて、有意義に会を閉じた。

遺児激勵大會

町遺族会の主催で

入善町遺族会では、八月二十四日午前十時より入善小学校講堂に、入善全地区小学一年生より中学三年生までの遺児二九九名を招いて激励慰安の会を開いた。

当日、遺族会長扇谷良太郎氏の開会の挨拶に始まり郡福祉事務所長、郡町村会長、郡福祉協議会長等の慰撫激励の辞があり、之に答えて遺児代表から靖国の父への綿々たる思慕をこめた感想と、堅い決意で誓う力強い答辞が述べられて、会興に移つた。

午前中は童話、午後は映画鑑賞と、もらつた慰問品をかゝえてのうれしい一日であるが、その出席率は七〇%と云う好成績で、連日浴びるような汗にもめげず火花を散らしての練習に、

上青青年學級の熱高まる

昭和二十七年の春開講されて以来、既に二年有余になるが、この間連綿と続講しつゝある上青青年学級は二十九年度も七月一日（諸種の事情のため例年より遅れた）にその開講を見るに至つた。

講師は前年の例にならつて上青中学校長及び同先生、上原青木両小学校長をはじめその他関係権威者がこれに当つておられる。当主事には上原小学校の本多吉郎氏がなられ、毎週土曜日の午后八時より、上原保育園においてひらかれている。

学習内容の撰択は自治会の役員において凡そ次の様な今年の十一月頃までの分で現在組まれている。

課程表

七月　一日　開講式
〃　十日　映写会　学級自治会
〃　十七日　音楽歌唱指導
〃　廿四日　幻灯会
〃　十一日　レクリエーション
〃　十四日　ヨンク
〃　廿一日　学習問題と生活
〃　廿一日　時事問題とその動向　民謡の研究
〃　廿八日　映画鑑賞討論会（映画について）
九月　一日　レクリエーション
〃　廿八日　郷土史
十月　一日　学級懇親会
〃　九日　舞踊歌唱指導
〃　十六日　地区の祭礼
〃　廿三日　食生活と栄養
〃　廿三日　特殊技能発表会
〃　三十日　討論会（恋愛と結婚）名曲鑑賞指導
十一月六日　見学（黒部峡の探勝）
〃　月十三日　文学作品の研究と紹介　座談会

斯様に青年として又公民として具備すべき常識的なものゝ修得する機会のなかつたものや、やさしい専門的なものがとり入れられている。

受講生も一回より二回、二回より三回と、現在では毎回五十名を数えていることは、青年の勉学意欲の向上をもの語るとともに、益々この学級が町八地区の先頭に立つて実質的効果を挙げてゆくであろうことが期待されている。

常設保育所開設

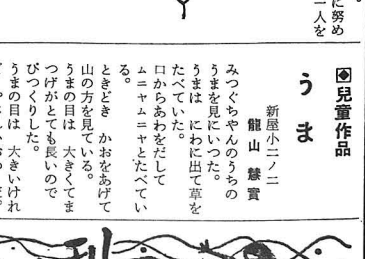
多数入所を望む

かねて、内容の設備改善を実施していた、椚山保育所の仕事も既に出来上り、いよ〳〵九月から常設保育所として開設することになりました。

常設保育所となれば、保母を常置しなければなりませんので、入所幼児がいつも一定の数以上いなければならないことになつています。尚保育所の生活や躾は小学校入学前の教育として、まことに好ましいものであることはいうまでもありません。

右のことからを諒解の上多数の幼児が入所するようお願いします。

入善町の傳染病發生狀況



は図表のとおりであつて、黒部保健所管内発生数の約半数を占めています。今の様な延の防止に努めましよう。（一印は一人を示めす）

追悼法要を厳修

新屋遺族会では八月二十一日午後一時より通法寺に於て戦没者の追悼法要を厳修。読経・法話などのうちに故人を偲びその霊をとともらつた。

椚山農協だより

廿九年産米　政府買入価格決る

政府は昭和廿九年産米の政府買入仮値価格を左の通り決定、七月廿七日発表になつた。

玄米及び精米　種類、等級、包装の如何を問わず　正味六〇瓩　三〇二〇円

農協八月上中旬行事足跡

八月　五日　農電モーター分解手入講習会　北陸電力出張

八月　十日　映画の夕　保温紙の三箱製紙提供

苗代の作り方、ニュース、マンガ、唄祭り八百八長　一千名突破

観覧者　一千名突破

八月十七日　西瓜の集荷開始

編集後記

曲りなりにも創刊号の刊行出来たことを皆様と共によろこばしく思います。

この刊行には矢の様な催促を受けていたことと、準備態制の充分整わないので、寄稿者各位に大へんな御迷惑をおかけして申しわけありません。

最初八月下旬に出す予定だったので、記事に多少の時間的ズレのあるものになりました。次号からは毎月一日に発行し、二頁ものとを各月交互に出し、四頁の時には半面程度の地方版を出す予定であります。

寄稿を出す予定のあるかたは、その地区だけの記事もどし〳〵御寄稿下さるようお願いします。

尚、原稿ばかりでなく、芸術写真や絵などの御投稿も歓迎します。

何分編集子は〝ズブの素人〟でありますので、編集上お気付の点は御指摘の上御指導に預るならば幸甚です。

兒童作品

うま

新屋小二ノ二　龍山慧賞

みつぐちやゝんのうちのうまを見にいつた。

うまは　にわに出て草をたべていた。

口からあわをだしてムニャムニャとたべている。

ときどき　かおをあげて山の方を見ている。

うまの目は　大きくてまつげがとても長いのでぴつくりした。

うまの目は　大きいけれど　やさしいおめゝだ。

おかあさんの　目のようだ。

應募規定

①原稿用紙は十二字二十一行のもの（申込み下されば送ります）

②締切期日　毎月十五日

③字体は正確にペン書のこと。

祝創刊

南保栄太郎　市岡正義
舟川竹次郎　中野康治
野沢幸与　鍵田才一郎
鍋島利秋　長島亥一郎
亀田定次郎

入善高等学校長　松島弘作
入善中学校長　龍山錠信
上青中学校長　奥田新作
黒東中学校長　村上武一
飯野中学校長　小沢三六
入善小学校長　国枝清作
上原小学校長　中野康治
青木小学校長　伊野太美蔵
飯野小学校長　潟田清
小学校長　戸　安原宗一
新屋小学校長　鍋島利秋
椚山小学校長　飯田誠一
横山小学校長　大久保由光